はるかな尾瀬

—目　次—

02　特集
　至仏山～“協働”で築く名峰の未来～
04　リレーエッセイ
　尾瀬沼や尾瀬ヶ原の水の流れ
06　エッセイ尾瀬好日
　①国立公園として新たに加わった山塊の管理について
　②尾瀬で元気を貰う
08　現地情報
10　連載コラム
　①夫婦二人三脚で歩む道
　②山小屋は魅力がたっぷり
12　TOPIX
13　尾瀬ボランティア情報
14　尾瀬保護財団からのお知らせ

2009.06 vol.9
（財）尾瀬保護財団

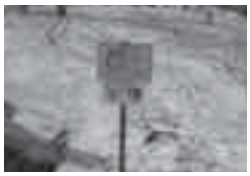
ゼンマイ群生（第13回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品—撮影　後藤孝好さん）

特集 至仏山

～〝協働〟で築く名峰の未来～

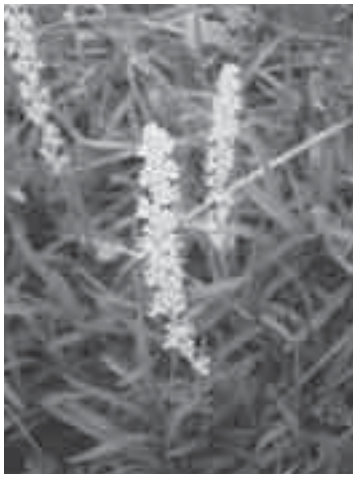
平成21年4月24日は、尾瀬の入山口の一つ、鳩待峠までの道路開通日でした。当日は、尾瀬のシーズンの幕開けを待ちわびた多くの登山者が鳩待峠から尾瀬に入山しましたが、その大半は山スキーやスノーボードをもち、至仏山頂を目指し登っていく人たちでした。この時期の至仏山はまだまだ積雪量も多く、雪をまとう尾瀬ヶ原を見下ろしながら、山スキーヤーや山ボーダーが広大な斜面に、思い思いのシュプールを描いていました。至仏山は、夏の花の時期だけでなく、秋の紅葉の時期、そして、残雪期と四季折々の表情を持った山です。また、特異な自然環境を有することから、日本の山の中でも高い貴重性を有しています。今号では、間もなく夏山のシーズンを迎える至仏山を紹介します。

▲GW中は山スキーヤー・ボーダーを中心に多くの利用者が至仏山を訪れる



◀至仏山保全対策会議は、登山口に利用方法を知らせる看板を設置

至仏山は、約2億年前頃に生成され、その後の地殻変動で盛り上がってできた山で、噴火によってできた燧ケ岳と比べると成り立ちが大きく異なります。至仏山は、カンラン岩から高温・高圧の作用で生成された蛇紋岩で主に構成されていますが、蛇紋岩は植物の生育を困難にさせるマグネシウムを多く含んでいるため、至仏山では蛇紋岩の特性に適応した多くの貴重な植物が生育しています。その一つがオゼソウです。オゼソウは、名前に「尾瀬」が付くとおり、尾瀬で初めて発見された花であり、氷河期から生き延びてきた花です。黄色味を帯びた花が尾瀬の空に小さくも勇ましく伸びる姿は、至仏山の植物の中でも圧倒的な存在感があり、ぜひ観察してほしい花の一つです。



▲オゼソウ（花期：7月上旬～下旬）

しかし、その貴重な自然を有し魅力が詰まった山だからこそ、多くの登山者が訪れるようになりました。昔は、登山道の場所が明瞭でなかったことも影響し、貴重な植生の上を人が歩き、登山道沿いに荒廃が進み、裸地が広がっていきました。特に裸地化が進んだ東面登山道（山ノ鼻～至仏山山頂）については、平成元年から平成9年まで登山道を閉鎖して整備を行い、尾瀬保護財団でも、平成11年度から、植生復元を実施してきましたが、元の状態に戻すことができていない状況です。

▲尾瀬ボランティアの協力のもと実施している東面登山道の立入防止柵設置作業

至仏山には、その貴重な自然を守りながら利用していくために、さまざまな課題があります。尾瀬がそうであるように、至仏山にも多くの関係者がかかわっているので、課題を解決していくためには、それぞれの意見を調整するための「話し合いの場」が必要です。尾瀬保護財団では、至仏山保全対策会議（以下、対策会議）を設置し、関係者の意見を集約しながら、至仏山の保護について総合的に検討しています。

至仏山の保全を推進していくためには、〝みんなで守る〟ことが非常に重要です。対策会議において、至仏山の保全のためのルールが作られ、対策が講じられたとしても、実際に利用する登山者の皆さんにルールを守って、利用していただかなくては何の意味もありません。至仏山に関するルールや情報を登山者の皆さんに理解してもらえるよう説明・周知していく積極的な取り組みが必要であり、登山者の方々にはそのルールに沿って至仏山を適正に利用してもらわなければなりません。至仏山を保護していくためには、関係者のみならず利用者も含めた〝協働〟が不可欠なのです。

ここで、対策会議が登山者の皆さんに求めている至仏山の主なルールを紹介します。まず、夏山シーズンでは東面登山道を「上り専用」で利用するルールを設けています。これは、蛇紋岩が滑りやすく下り利用時のケガ人が多いため安全を確保するという目的のほか、植生を保護することが大きな目的です。急坂な東面登山道の下りでは、登山者はどうしても歩きやすい場所、つまり、蛇紋岩や水たまりを避け、登山道脇の植生の上を歩くようになり、登山道の幅員拡大を招き、土壌の流失・崩壊を進めてしまいます。今以上の荒廃を防ぐために、下りを禁止し、上り専用としているのです。

次に、携帯トイレ携行の勧めです。至仏山の登山道上にはトイレがないため、登山道脇で用を足す人が多く、一年間に約2万人という入山者数を勘案すると、トイレによる環境負荷は非常に大きいと考えられています。携帯トイレを携行することで、美しい至仏山を汚さずにすみます。使用済みの携帯トイレは、持ち帰りについて登山者の皆さんの御理解と御協力をお願いします。

また、尾瀬保護財団では、新しい取り組みとして、今年度から登山道のうち荒廃が著しい「東面登山道上部」「小至仏山南面」「オヤマ沢田代」の3区間について、現登山道及び迂回候補先の状況を調査するための「至仏山保全対策環境調査」を実施する予定です。この調査では、現登山道と迂回候補先の植生や土壌などを比較することで、至仏山の環境に負荷を与えない登山道のあり方について検討します。

▲携帯トイレ

至仏山の自然保護を最優先に考え、その範囲の中で適正な利用を図っていき、至仏山がいつまでも尾瀬のかけがえのない景観を作りあげる名峰であり続けられるように、関係者及び登山者の皆さんとの協働事業として取り組んでまいります。

リレーエッセイ

尾瀬沼や尾瀬ヶ原の水の流れ

諸岡　信久

はるかな尾瀬は１９６５年初夏、鳩待峠から尾瀬ヶ原の竜宮、白砂湿原を経て尾瀬沼から三平峠まででした。当時、峠道は凄いぬかるみ、尾瀬ヶ原では狭く動く木道、尾瀬沼周辺も森や岩の間を歩いた記憶があります。大清水の露天温泉では蛇と一緒に入浴した思い出があります。これが発端になったのか、高校では生物部に所属して学生版牧野植物図鑑を片手に奥多摩、丹沢、奥利根の総合調査を体験しました。福島県で生活環境を調査し始めてからは、阿武隈地域のダム湖、猪苗代湖、尾瀬沼を対象に河川も調査してきました。

尾瀬国立公園が独立した現在、自然が学べるフィールドとして尾瀬は極めて重要であります。尾瀬の特別保護地区の核心部にある２ヶ所のビジターセンターには剥製や乾燥標本、録音された鳥の声が流されています。この種の知識はビジターセンターだけでなく入山前に事前学習し、尾瀬の中では本物を見つけ出して、自然に溶け込んでみたいものです。

水質調査では、学生と伴に木道の上から採水していますが、決して土壌や動植物を採集しているのではありません。この数年、群馬県立尾瀬高等学校の生徒とも尾瀬ヶ原などの水質調査をしました。この体験は、本物の自然に包まれ五感を通して考えることが、自然科学の教育にきわめて重要であることを再確認させるものでした。

尾瀬は地層などから、南の至仏山は弱アルカリ性、北の燧ヶ岳は弱酸性の沢水で始まります。流れ下る水は土壌成分を溶かして、湿原に入りますが、その栄養は多種類の植物によって取り込まれ、湿地環境下で植物体が分解しにくく堆積するため、泥炭は貧栄養状態になり植物体が大きくなりません。池塘周辺のモウセンゴケなど食虫植物は酸性で貧栄養状態の環境でなければ生育しません。

近年、国立公園内の特定の場所に集積された過去のゴミも明らかになっていますが、この他にも都市生活を持ち込むことによる自然に対する影響が出ています。尾瀬沼の水質は富栄養化が進み中性化しています。そして、大腸菌群も検出されます。また、各地区にある施設周辺では、ミズバショウやヌマガヤが巨大化しています。この原因の一つとして、水の富栄養化状態が考えられます。特に栄養成分のリンは窒素の10倍の肥効があり、土壌に吸着する性質があります。拠水林は水に溶けやすい窒素分だけでなく、土壌に吸着したリン分が河川周辺に堆積することによります。見晴十字路周辺では、施設排水溝に沿ってヨシが分布していますが、秋には施設周辺で３ｍを超える背丈になり、離れるほどその背丈が低く80㎝程度になります。これら繁殖力の強い種類が優占種になり他の植物の生育を抑制し始めています。背丈が３ｍを超えるヨシで覆われた尾瀬を想像したくはありません。尾瀬沼では流出河川の沼尻川が水門で制御され、三平下近くの取水口から人工的に湖水が群馬方面へ流出しています。その結果、沼尻周辺の植生に影響を与えていると考えられます。尾瀬沼は水深が浅く、富栄養化すると太陽光線によって藻類が繁茂しやすい傾向も考慮する必要があります。尾瀬ヶ原では山ノ鼻地区の浄化槽で処理された水が川上川等を経

て尾瀬ヶ原核心部を流下すること、竜宮地区の浄化槽で処理された水が沼尻川を経てゆくことを考慮すると尾瀬ヶ原西側の植生の変化をモニタリングする必要があると思います（※）。一方、木道周辺もミズバショウなど巨大化していますが、木道の腐朽などによってその周辺の栄養が増している可能性が考えられます。尾瀬地域の富栄養化に温暖化が加わると尾瀬地域の植生は大きく変化する可能性があります。

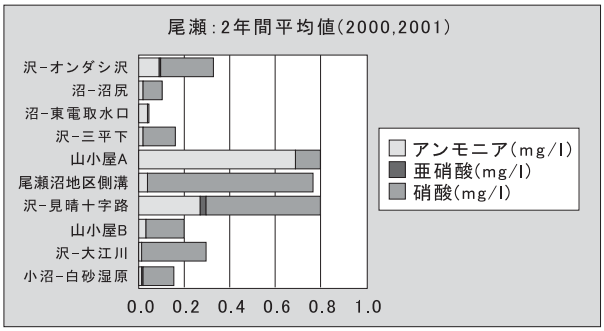
はるかな尾瀬に入るとき、持ち込む都市生活が少なければ、その分だけ自然からのメッセージが心身に浸み込むのを感じます。

筆者紹介

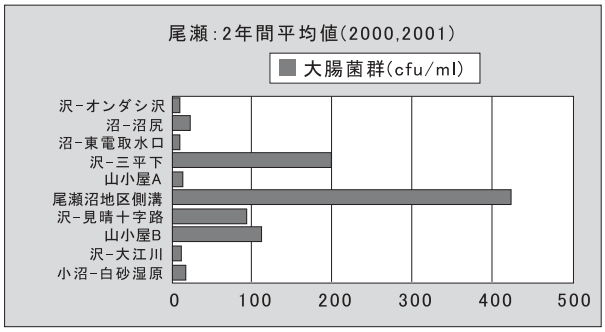
諸岡　信久（もろおか　のぶひさ）
郡山女子大学大学院人間生活学研究科教授
専門は、人間環境学
人間の生活の周辺で日常的に生じている安全性の課題を様々な角度から捉えながら、生活環境における化学物質及び微生物の安全性に関する研究を行っている。

前号の松井孝夫氏（群馬県立尾瀬高等学校教諭）よりリレーしました。

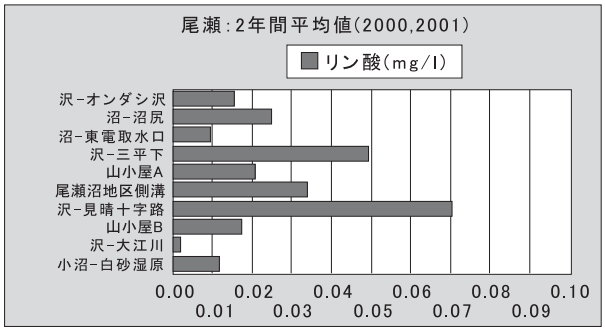
※川上川の環境変化については、群馬県尾瀬保護専門委員会が経年変化について調査を行っています。



▲尾瀬各箇所の水質調査結果（窒素分のイオン形態別窒素濃度）



▲尾瀬各箇所の水質調査結果（大腸菌群）



▲尾瀬各箇所の水質調査結果（リン酸）

▲白砂湿原での調査の様子（2002年）

エッセイ

尾瀬好日

環境省檜枝岐自然保護官事務所
首席自然保護官　仁田　晃司

「国立公園として新たに加わった山塊の管理について」

来訪者が多くそれとともに弊害も出始めた昭和50年代から、利用分散化の一案として会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山の山塊を日光国立公園に……という流れを経て、分離・独立かつ編入域を加えて新たに誕生した尾瀬国立公園は今年3シーズン目を迎えました。

新しく国立公園として加わった会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山地域をどの様に保全し利用していくのか、管理が定着していないこの地域における方向性を導き出すために検討会を設置して話し合ってきた結果、今年3月「会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山地域景観保全管理方針」として具体的な方向性を示すことが出来るようになりました。この中で、貴重で豊かな自然が広がり利活用されてきたふるさとの山であると共に、深い自然体験が出来る場として認識しつつ、気候や人為の影響を受けやすい脆弱な環境にあることを基本として考え方を示しています。

私ども環境省として、特別保護地区（会津駒ヶ岳周辺及び田代山の山頂湿原）及びこれらに至る登山道について、自然環境の保全を確保するための整備を行うべくハード整備は5年程度での完成を目指しています。今まで地域の山として整備されてきた木道等が植生を脅かす原因になっている節もあり、このような場所ではモニタリングを経てからの実施設計を行います。また、ソフト面ではコンパクトな山塊のため、ふるさとの山として山麓集落との連携を図り、集団登山・環境教育等の利活用に関する面にも軸足をおく方向が示されています。

旧尾瀬地域同様に、訪れる皆様方の保全に対する見識と行動でこの拡張域を利活用していただければと思います。山麓には数々の温泉が湧き出てさわやかに過ごした汗を落としてくれることでしょう。

今回定められた景観保全管理方針を基に、地域と連携して保全管理・適正利用・地域活性化という流れを作りたいと思います。

最後に私感ですが、会津駒ヶ岳や田代山で登った先に広がる湿原風景が幼い頃に登った八ヶ岳中信高原国定公園「美ヶ原」に建つ美ノ塔に刻まれた一説「登りついて不意にひらけた眼前の風景にしばらくは世界の天井が抜けたかと思う。……」これは尾崎喜八の歌ですが、この時幼心に感じたこの歌に書かれた情景（草原と湿原の違いはありますが）が歳を経てこの山塊で去来しました。

※策定された管理方針は環境省や当財団ウェブサイトでご覧いただけます。

▲田代山湿原の木道沿いの裸地
植生復元が検討されている

▲会津駒ヶ岳山頂直下より
周囲の山々を望む

エッセイ
尾瀬好日

「尾瀬で元気を貰う」

尾瀬ボランティア
白島　達彦（No.485）

財団のボランティアとなって毎年十回二十回と訪れている私の中で、尾瀬に向かう気持ちの変化の兆しに一種の感動を感じています。花を求め、ビジターセンターで聞かれる名前を必死に答えていた段階から、一つ探索テーマを持って記録していた頃も過ぎ、今では一緒に花を見つめ「自然の不思議」に感動を感じとろうと少し余裕を持てるようになりました。

山ノ鼻の研究見本園は、その名の通り様々な花たちに出会える絶好の場です。花の時期だけでなく、刻々と成長・変身する植物たちの姿は、驚異そのものです。タテヤマリンドウの秋の実、ショウジョウバカマの花から想像できない長く伸びた茎、日に一本ずつ雌しべに受精していくウメバチソウの花。それから、招かれざる訪問者から花粉を守る植物の知恵も素晴らしい！池塘の岸辺ではトンボの羽化も観察でき、餌を狙って同じ空中を限りなく行き来するトンボの飛翔は飽きさせません。見本園を離れ、尾瀬ヶ原そして尾瀬沼と歩を進めれば、街の喧騒を忘れさせてくれる静寂とすがすがしく美味しい空気を満喫できるし、数え切れない花や昆虫たちや樹林帯に迎えられます。

▲尾瀬で出会ったアサギマダラ

これまで花ばかり追っかけていたけどこの冬、雪原の中を木々の冬芽を尋ねるツアーに参加し、芽吹き前の樹林帯も魅力だなーと感じている現在です。茎から葉を落とした葉痕に残る形態のユーモラスなこと、つい笑いがこみ上げてきます。春の芽吹きに備え、強く葉芽を守っている固い葉鱗の構造も見事でした。春を迎える前の林の中にも、胸をときめかす出会いがあることを知った経験でした。

私は、尾瀬という自然を守るボランティアとしての務めとともに、訪れる人が「明日からの活動の元気」を持って帰ってもらいたいと考えています。広大な尾瀬国立公園で一回に出会える感動は余りにも僅かです。まばゆい輝きの中に浮かび上がる燧ヶ岳・その影を写す至仏山・自分を包み乱舞するホタルの大群・早朝の霧の中、満身霜をまとった晩秋の草たち・満天の星に囲まれてみる山麓の街灯り、そして尾瀬固有または稀少な植物をはじめ澄んで爽やかな空気の中に咲き乱れる色鮮やかな花々等に出会ったら、どなたも心が浮き立つ事でしょう。私は、今年も未知の食虫植物「ムラサキミミカキグサ」に出会える事を楽しみにしています。

▲尾瀬沼ゴミ拾いボランティア活動時の写真
（筆者は右から２人目，小淵沢田代〈H20.10.13〉）

現地情報

原をわたる風だより

～山の鼻ビジターセンターより～

2009年度がスタート

5月9日、尾瀬関係者や一般登山者が参加して、山の鼻ビジターセンターの開所式が行われました。

今年は、VC職員落合によるスライドショーや昭和20年代の貴重な映像を上映。続いて尾瀬ボランティア登坂さんのハーモニカ演奏が行われ、尾瀬の自然に溶け込んだハーモニカの音色に合わせた全員合唱で閉会となりました。

スタッフ9名で活動開始。

新規職員3名を迎えたスタッフ9名で、ビジターセンター業務を開始しました。職員の意気込みや得意なことをご紹介します。

私は、昨年度まで磐梯朝日国立公園の浄土平ビジターセンターに勤めていましたが、勉強がてらに昨年7月に尾瀬を訪れ、環境の変化に富んだすばらしい自然の中で働いてみたいと思いました。

尾瀬は自然保護の発祥の地で、また、単独国立公園になり、さまざまな意味で期待が高まっています。この尾瀬で自分の長所やネットワークを生かしながら、更に国立公園のモデルになるために貢献したいと思っています。

半年間という短い期間ではありますが、訪れる人々に尾瀬の魅力を一つでも二つでも伝えて行きたいと思います。

（宍戸　憲二）

昨年尾瀬の山小屋で働き、今まで知らなかった尾瀬を身近に感じました。

それ以来、もっと自然に触れたい・沢山の人に尾瀬を知ってもらいたいという思いが強くなりました。ビジターセンター職員になれたこの機会を生かし、尾瀬の魅力を最大限に伝える展示物・尾瀬情報作成に力を入れていきます。

（渡辺　純平）

昨年度まで2年間事務局に勤務していましたが、ついに現地に来てしまいました。国立公園の中で暮らし働ける幸せを噛みしめながら、皆さんをお迎えしたいと思います。

なお、私の得意技はのんびりまったりすること。頑張って仕事をした後に見本園のベンチで過ごす時間は至福のひとときです。その後にいただく晩ご飯も最高！皆さんも是非尾瀬にきてくださいね！

（内田　真樹子）

早いものでこの仕事も4シーズン目、昨シーズンの見晴休憩所常駐を経て、山ノ鼻に復帰しました。古巣に戻って2ヶ月余り、今はその楽しさを実感しています。昨年は尾瀬ヶ原の反対側から体験することができて、大変有意義な時間を過ごせたと感じています。

今シーズンはそれを生かして、観察会など尾瀬をより面白く感じて頂けるよう、皆様をご案内できればと思います。

（西口　俊一）

ミニツアー。今年度も行います。

山の鼻ビジターセンターでは、昨年に引き続き「尾瀬の自然・ミニツアー」を行います。昨年は時間を決めて行っていましたが、今年はよりたくさんの皆様に参加していただけるよう、随時受付で行います。

職員一同皆様に良い思い出を持ち帰っていただけるよう、張りきって準備していますので、お気軽にご参加ください。申し込み不要、参加費無料です。

（落合　清勝）

尾瀬のお花見

5月下旬にミネザクラが咲き始めると尾瀬に春がやってきたことを実感します。この頃、ビジターセンター周辺の木々の葉が紅葉したように目立ちます。葉は伸びてくるにつれ、緑色に変わっていきます。

この樹木はバラ科サクラ属のシウリザクラ。開花は6月下旬頃。花は試験管を洗うブラシ状に多数つきます。尾瀬はまだまだお花見シーズンです。

（秋山　恵美子）

現地情報

おこじょだより

～尾瀬沼ビジターセンターより～

2009年度がスタート

4月28日、3名の職員で入山して準備を進め、昨年同様、5月1日には尾瀬沼ビジターセンターをオープンさせました。例年ですと2m以上の雪に閉ざされた「冬」の世界に入ってきたという印象が強いのですが、今年は例年になく温かい日が続き、アッと言う間に湿原の雪は融けてしまいました。雪が徐々に融けて、覗いた湿原にミズバショウなどの芽が出始めるというのがいつもの風景ですが、雪が全く消えて閑散とした黒と茶の湿原の所どころにミズバショウの花が咲く、少し変わった風景に戸惑う毎日です。

今年のシーズンはこれからどうなっていくのでしょうか？

さて、今年は男性が4名、女性が3名の体制でビジターセンターを運営して行きます。

尾瀬には車の走る道路はありません。動力で動くのは除雪機ぐらいのものです。ここでは、ヘリコプターが運んできた食料や資材を館内まで運ぶのは全て人間です。怪我をされたお客さんが出たときにも、時には防災ヘリに搬送を依頼し、時には各山小屋さんやビジターセンターから人を出して、担架で運ぶこともあります。尾瀬では地域の人間関係、協力体制が必須です。

私どもは、職員間のチームワークを大切にし、地域の皆さんとも仲良く、尾瀬の自然を守り、尾瀬に来られた方に楽しんでいただくと共に、私どもも尾瀬での活動を楽しめるシーズンにしたいと考えております。

ぜひ、尾瀬にお越しください。

（中川　昌二）

▲冬の尾瀬では、サングラスは必需品!!
写真左から、中川・羽田・渡辺・岩下

▲5月9日入山時の燧ヶ岳と尾瀬沼

「私の尾瀬」

私がはじめて尾瀬に行ったのは、十八歳で就職して、最初の五月の連休でした。先輩たちに連れられて、朝四時まだ暗いうちから登りはじめました。現地に着いたら、一面雪と氷で真っ白で、幻想的な世界でした

研修を受け、五月九日に上山したところ、そこは雪に埋もれた別世界。昔の記憶がよみがえり、また、感動してしまいました。

しかし、下界とは打って変わったきびしい自然環境。仕事も、これまでやってきた事とは、全く違っており、さらに、そこで集団生活することに戸惑っている部分もあります。それでも、念願の尾瀬を満喫すべく、新しい生活にチャレンジし、張り切っています。

（羽田　則夫）

「～四つの出会い～」

尾瀬に来る色々な人にも、ぜひ考えて欲しいと思います。

それは、「自然・人・常識・自分」の四つの出会いです。

自然は、尾瀬の自然との出会い。人は、尾瀬に関わる人や出会った人達。常識は、尾瀬での常識（ゴミは持ち帰る事など）。自分は、他の人と比べることで、初めて見えてくる新しい自分と出会う事と思っています。

この四つの出会いを心にとめて尾瀬の仕事をしたいと思います。

四つの出会いの解釈は人それぞれです。あなたは、「自然・人・常識・自分」をどのように考えますか？

（岩下　和広）

「第一歩」

残雪の量に驚きつつも、何か興奮する気持ちを持ちながらの入山。まさにこの時、ここ尾瀬での生活が始まりました。

雪が解け春を迎えた尾瀬を目の前にし、季節が駆け足で過ぎ去ってしまう印象を受けています。

また、いろいろな姿の尾瀬をこれからじっくりと見ていきたいと思っています。

あの日の尾瀬が今もここに。そんな願いを持ち、活動していきたいと思います。

（渡辺　健一）

■連載コラム　『夫婦二人三脚で歩む道』

尾瀬から学ぶスローライフ　取材協力＝星野一・敦子（群馬県片品村）

尾瀬へと向かう国道から離れ、鎌田から車で5分ほどで、高原の農園の中にひっそりと建つ「農家レストラン・みのりの里」に到着します。レストランのチラシからは「その日に使う野菜はシェフが大地と相談して決めています」と、おおらかな雰囲気が伝わってきます。レストランだけでなく、体験農園や農家民宿と、片品村にこだわった活動を行っている、オーナーの星野一（はじめ）さん・敦子さんにお話を伺いました。

色々な方に生かされている

「もともとはこの場所でリンゴ農園をやっていたのですが、夫は農薬をたくさん使うリンゴ栽培に疑問を持っていました。それで夫が経営を担ってからは、小規模のリンゴ農園で直売やリンゴ狩りを始めるようになりました。当時は周辺でリンゴ狩りを体験できる農園は無かったですし、標高800mで育つここのリンゴは味が良いと評判でした」と農園が見渡せる店内で敦子さんが話してくれました。

「おかげで多くのお客様がここを気に入ってくれました。ただ私たち夫婦2人では、しだいに増えてきたお客様の相手が出来なくなることもあり、せっかく来てくれた方に申し訳ない気持ちでいっぱいでした」と敦子さん。そんな経営に転機が訪れたのは平成6年頃だったそうです。

▲開放的な店内からは農園が見渡せる

▲採りたてアスパラガスと自家製ソーセージのピザ

「次第に病気で枯れていくリンゴを抜きながら、その後にブルーベリーを植えたり、農園で採れた野菜や自家製の米を提供できる農家民宿を経営していたのですが、訪れた方に安全に楽しんでもらいたいという気持ちから、リンゴ栽培を辞め、体験農園を始めました。生産者と消費者の気持ちを一つにつなげた結果だと思います」。

ありふれたメニューを真面目に作る

午後には一さんの案内で農園を歩いてみることにしました。「野菜の直売をやっていると、野菜がある程度無駄になってしまうので、平成12年からレストランを始めることにしました。またレストランや民宿に来た方が、その場ですぐに収穫体験できるよう、周囲に点在していた農地を近くの土地と少しずつ交換してもらい、約10年かけて8000坪に集約しました。数多くの野菜が栽培されているので、季節に応じて収穫が可能ですが、なにしろ手間がかかります」と、一さんの穏やかな話からは、ここまで農園を育ててきた強い意志が感じられました。

レストランのメニューの事を伺うと、「私たちのやろうとしている事を理解したコックが何よりも必要でした。片品村やこの場所で採れたものが好きで、その日に収穫した野菜からメニューを創造する。そんなコックに3年前にやっと出会え、やっと色々な事が整ってきたと思います」。

▲みのりの里入口。上州武尊山が遠望できる。

最後にこれからの目標について伺うと、「これまでは食材を増やすことを考えていましたが、これから選んでいきたいですね。また、季節毎に移り変わる農作物で農園を飾りたいと思います。もちろん夫婦間で歩む道がずれないよう、これまでもしてきたように毎日2時間はお互いに気持ちを話すようにしたいと思います」と二人三脚で歩んできた今までを大切にすることを話してくれました。

▲農家レストラン入口にて孫の櫂（かい）くんと

農家レストラン みのりの里

（片品村菅沼360）

■問い合わせ先
シャレー：
0278-58-3954
レストラン：
0278-58-3538
FAX：
0278-58-4413

■連載コラム　「山小屋は魅力がたっぷり」

続・山小屋主が語る尾瀬の秘話　取材協力＝燧小屋（福島県南会津郡檜枝岐村）

見晴地区では6件の山小屋が営業していて、いずれの山小屋も個性的です。そんな見晴で、尾瀬ならではの暖かさを大切に山小屋を営んできた燧小屋の平野昌弘さんに、お話を伺いました。

大津岐・砂子から尾瀬へ

「祖父・與三郎（よさぶろう）は、開墾のため大津岐・砂子に入植していましたが、魚釣りや猟をするために尾瀬に入ったようです。夏の間はイワナ釣りをし、釣った魚を干して、檜枝岐村内や、既に山小屋をはじめていた長蔵小屋さんに売っていました。また、冬は猟師として熊やカモシカを捕っていました。その頃は、小さな小屋を建てて住んでいて、まだ人を宿泊させるための小屋ではなく、自分たちが住むための小屋だったようです」と、明るい春の光が部屋に差し込む燧小屋で、平野さんは当時の様子を思い出しながら、ゆっくり話はじめてくれました。

「祖父は山小屋の建築を昭和30年頃に始めましたが、材料の木材を周辺の山から切り出すため、当時は山小屋を建築するのはとても大変だったようです。移動製材と呼ばれる方々や住み込みの大工さんなどの協力を得ながら、ようやく完成したのは昭和32年のことでした。当時は馬方さんなどに生活物資を運んでもらっていましたが、物資が不足することも多く、祖父たちも七入から物資を背負って見晴に上がってきていました」と、山小屋の建築当時の苦労を話してくれました。

▲建築中の燧小屋（昭和30年頃）

変わらない山小屋のよさ

「私が小屋主になったのは、平成7年からですが、今も昔も変わらない山小屋のよさがあります。最近の宿泊者は個室希望をされる方が多くなってきましたが、相部屋を希望される方もまだまだいらっしゃいます。尾瀬での人との出会いを楽しみにしているのでしょう。山小屋はそういうふれあいができる場所だと思います」そして、変わらない山小屋のよさを象徴する話をしてくれました。

「昭和40年代は宿泊者がとても多く、脱衣所や屋根裏部屋などにも宿泊してもらっていました。その頃のよき思い出を頼りに、今でも屋根裏部屋で寝かせてほしいという方もいらっしゃいます。当然、今は寝てもらうことはありませんが、当時と変わらないものに思いをよせていただけているのでしょう。建物や人、山小屋には昔と変わらないものがたくさんあります。時代が変っても、変わることなく残ってきた山小屋のよさを多くの方に味わってほしいと思います」

▲現在の燧小屋（コバ板の屋根など山小屋のよき雰囲気が残っている）

尾瀬の好きなところ

長い間、尾瀬を見つめてきた平野さんに、尾瀬の好きなところを伺いました。

「普段、入下山で利用している燧裏林道です。特に、これからの新緑の時期と紅葉の時期が大好きです。結構アップダウンがありますが、樹木に囲まれての山歩きはゆったりした気分になり楽しいですよ。最近は、魚沼ルートで尾瀬にアクセスするお客さんが増えたということですが、御池から燧裏林道を歩き見晴まで来る方も多く、皆さんに喜ばれているコースです」他にも、尾瀬にはたくさんのよいところがあると話す平野さん。そんな尾瀬をゆったり、ケガなく楽しむためにも、平日利用や宿泊を含む計画をオススメいただきました。

▲小屋前の平野さんご夫妻

燧小屋

（檜枝岐村字燧ヶ岳1）

■問い合わせ先
090-9749-1319
■宿泊料金
1泊2食　8,400円
■営業期間（例年）
4月末頃～10月下旬

尾瀬保護財団 平成21年度 事業計画

尾瀬保護財団の平成21年度事業計画が、本年3月27日に開催された第30回理事会・評議員会で決定されました。事業計画の概要は次のとおりです。

1 利用者啓発事業

①入山者啓発事業

ア　入山口啓発：主要入山口において入山マナーの啓発、利用案内、ごみの持ち帰り運動等を実施する。

イ　尾瀬ボランティアの活動支援：活動拠点の整備やボランティアのための研修会を開催する。

ウ　ガイド利用の普及・促進

㋐　尾瀬認定ガイド制度の支援：ガイド利用による自然体験やエコツアーなどを通じて、尾瀬の自然環境の保全を図るため、尾瀬認定ガイド制度について支援する。

㋑　尾瀬自然解説ガイド：ガイド利用の魅力、有用性等を利用者に啓発し、普及を図るため、尾瀬ボランティアを母体に養成した尾瀬自然解説ガイドによるガイド活動を実施する。

②自然解説事業：利用者が尾瀬の貴重な自然について認識を深め、適正利用の促進を目的として、両ビジターセンターの職員等により、自然解説活動を実施する。

③啓発PR事業

ア　機関誌の発行：「はるかな尾瀬」を年4回発行する。

イ　「わたしの尾瀬」フォトコンテスト等の開催：写真コンテストを行い、尾瀬周辺地域で写真展を開催する。また、尾瀬フォーラムを開催する。

ウ　ホームページの管理運営：尾瀬の保護と適正利用を推進するとともに、財団の活動を周知するため、自然情報や財団の財務等をホームページに掲載する。また、海外への情報発信を強化するため、ホームページ及び簡易なパンフレットの英語版を作成する。

2 環境保全事業

①植生復元事業：荒廃した湿原等の植生を復元・保全するため、尾瀬沼地区及び燧ヶ岳北面等の植生荒廃地について事業を実施する。

②至仏山保全対策：至仏山保全対策会議において至仏山の保全について広く検討する。荒廃が激しい3区間について、現登山道及び迂回ルート候補地の状況を把握するための環境調査を実施する。

③山ノ鼻地区気象観測：山ノ鼻地区の気象を観測し、データ整理を行う。

3 施設管理事業

①ビジターセンターの管理運営

②公衆トイレの維持管理

4 調査研究事業

①尾瀬国立公園利用適正化推進事業：特定の時期や場所に入山者が集中している現状を把握し、利用の適正化を図る対策を策定する。また、ツキノワグマの生息状況調査を行うとともに、マニュアルに基づいた保護管理活動を実施する。

②尾瀬国立公園協議会：尾瀬ビジョンの進行管理と21世紀の新しい尾瀬国立公園づくりを進めるため、尾瀬国立公園協議会を設置し、運営を行う。

③尾瀬国立公園編入地域調査事業：尾瀬国立公園編入地域の環境調査を実施し、自然生態系の保護復元に必要な基礎的資料を収集する。

5 顕彰事業

研究者から論文を募り、優れた業績に対して尾瀬賞を授与する。将来有望な研究者に対し尾瀬奨励賞を授与する。

6 友の会事業

財団活動に対する支援を幅広く求めるため、会員増加に努める。会員期間について、年度制から年間制に変更し、加入促進を図る。

7 その他

①尾瀬サミットの開催

開催時期―8月3日　開催場所―東電小屋

②尾瀬国立公園関係者連絡会議の開催

③寄付金の募集

特定公益増進法人の認定制度を活かし、企業・団体等に対し積極的に寄付を募る。

④物品の販売：フォトカレンダー等の販売

⑤尾瀬カード募集：尾瀬カード発行の促進

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●ボランティア活動が始まりました。

今年度のボランティア活動の日程は、お送りした活動計画をご覧ください。

参加をご希望の方はEメール、FAX、電話等で事務局へお申し込みください。また活動後は必ず活動報告書を提出してください。報告書の様式はホームページにありますので、ご覧いただくか、事務局へご請求ください。

●活動情報

○尾瀬巡回清掃

アヤメ平

・日時／8月1日(土)9～12時

・予定コース／鳩待峠→横田代→アヤメ平→富士見峠（解散）

会津駒ケ岳

・日時／8月1日(土)7～16時

・予定コース／滝沢登山口→駒の小屋→中門岳→滝沢登山口（解散）

尾瀬ケ原

・日時／8月22日(土)9～15時

・予定コース／山ノ鼻VC→見晴→東電小屋→ヨッピ橋→山ノ鼻VC（解散）

燧ケ岳

・日時／8月22日(土)7時～14時

・予定コース／

①御池駐車場→熊沢田代→俎嵓→長英新道経由尾瀬沼VC（解散）

②尾瀬沼VC→長英新道経由俎嵓→長英新道経由尾瀬沼VC（解散）

●尾瀬沼ビジターセンターの運営について

尾瀬沼ビジターセンターを所管する環境省の自然保護官から、尾瀬沼ビジターセンターの運営について、次のとおり指摘がありました。

・来客者（ボランティアの皆さんも含む）が業務で事務室内に入ることはかまわないが、それ以外で立ち入りすることは遠慮してもらいたい。

・また、事務室内での打ち合わせ等の際に湯茶を出すと、「国の施設で一般人に接待することになる」ので、湯茶は出さないでほしい。

ビジターセンター運営業務委託元の環境省からの指示ですので、ボランティアの皆さんに事務室へお入りいただけませんが、尾瀬沼へお越しの際はビジターセンター職員にお声をかけてください。ご協力よろしくお願いいたします。

●山の鼻ビジターセンターにボランティア休憩スペースを開設しました

山の鼻ビジターセンターに活動を支援するため、休憩スペースを設けました。次のルールを守ってご利用ください。詳細はホームページをご覧いただくか、または事務局へお問い合わせください。

・利用の際は利用者記入帳に所定事項を記載してください。

・パークボランティアの方も利用します。

・騒いだり大声で話したりしないでください。

・きれいに利用し、汚した場合は掃除をしてください。

●大清水での啓発活動について

大清水口の啓発活動用資材置き場として、片品村さんから奥鬼怒林道管理棟をお借りしました。利用方法等詳細はホームページをご覧いただくか、または事務局へお問い合わせください。

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

■個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。（財団への寄付を行った翌年１月１日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。）

福島県、群馬県にお住まいの寄付者　：　個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

■また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種　類	条　件	特　典
特別協賛寄付	３年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを１年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で１年間使用
協　賛　寄　付	３年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を１年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）に御来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

会津信用金庫　定期積金“エコロジー積金「尾瀬」”より100万円を御寄付いただきました。（2009月3月13日）
寄付者からのメッセージ：契約額に応じて寄付を行うエコロジー積金「尾瀬」を発売致しました所、多くのお客様にご賛同を頂き誠にありがとうございました。今回の寄付金が尾瀬の自然環境保護に有効に活用されることを期待しております。会津信用金庫はこれからもお客様と共に自然環境保護と地域社会発展に貢献してまいります。

株式会社群馬銀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として152万円余りを御寄付いただきました（2008年6月9日）。昨年に続き、今回が２回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として443万円余りを御寄付いただきました（2008年6月11日）。昨年に続き、今回が２回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

株式会社第四銀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として115万円余りを御寄付いただきました（2008年6月11日）。昨年に続き、今回が２回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

株式会社東邦銀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として137万円余りを御寄付いただきました(2008年6月6日)。昨年に続き、今回が２回目の御寄付となります。

新潟証券株式会社　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として37万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が２回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

協賛寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

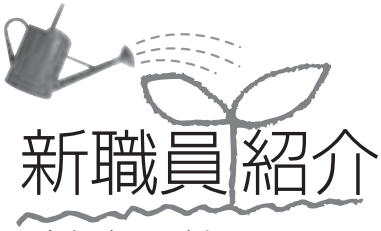
尾瀬山小屋組合　平成10年より尾瀬山小屋組合加盟の山小屋・休憩所に募金箱を設置し、そこに入れられた募金をシーズン終了後に取りまとめて御寄付いただいております。今回は24万円余りを御寄付いただき、累計額は485万円余となりました。(2008年12月12日)

共和工業株式会社　尾瀬保護財団の活動に賛同いただき、今回を含め3年間、毎年10万円の御寄付の申込みをいただきました。
(新潟県三条市　2008年5月22日)

群馬県ホンダ会　群馬県下ホンダカーズ・ディラー25社からなる群馬県ホンダ会様より、36万2千円の御寄付をいただきました（2008年10月31日)。これは､｢SaveOze｣と名前の付けられたリボンマグネット（マグネット素材のステッカーで車等に貼り付ける）を群馬県下の販売店で1年間販売するにあたって、その売上金の一部を前もって御寄付いただいたものです。

社団法人日本損害保険　代理業協会　地球環境保護活動の一環として設立されたグリーン基金より尾瀬の自然保護の支援として平成20年度から5年間、毎年20万円の御寄付をいただくことになりました。(2008年7月28日)

株式会社福島銀行　尾瀬の自然環境保護のため、35万円を御寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期のお利息の3%に相当する金額を御寄付いただいたものです。(2009年5月28日)



【山の鼻ビジターセンター】

内田　真樹子
（うちだ　まきこ）

宍戸　憲二
（ししど　けんじ）

渡辺　純平
（わたなべ　じゅんぺい）

【尾瀬沼ビジターセンター】

羽田　則夫
（はだ　のりお）

岩下　和広
（いわした　かずひろ）

渡辺　健一
（わたなべ　けんいち）

越智　直美
（おち　なおみ）

イベント情報◆◆◆

第14回ＮＨＫ「わたしの尾瀬」フォトコンテスト

四季折々、様々な表情を見せてくれる尾瀬。このコンテストは、魅力に満ちた尾瀬を広く紹介するとともに、貴重な尾瀬の自然を見直し、自然保護への関心を高める目的で、企画したものです。

○応募締切
平成21年11月5日（木）

○募集区分
「風景」の部、「動植物」の部
「人」の部、「保護」の部
※応募要項等の詳細は、同封しましたパンフレットをご覧ください。

★尾瀬ワンポイントチェック★

○ストックキャップはついてますか?
ストックは歩行を補助する道具として効果的ですが、ストックキャップがついていないと、土壌・植生や木道を痛めてしまいますので、写真のようにストックキャップを付けましょう。

編集後記

今まで以上に、皆様に楽しんで読んでいただけるように、今号から「特集」の新規掲載やレイアウト変更などを行い、モデルチェンジをしました。ご意見、ご感想をお待ちしています。

はるかな尾瀬
財団法人尾瀬保護財団機関誌
2009.06　平成21年6月30日発行
発行所：財団法人尾瀬保護財団

〒371-8570　群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL　027-220-4431／FAX　027-220-4421
E-mail　info@oze-fnd.or.jp　ホームページ　http://www.oze-fnd.or.jp

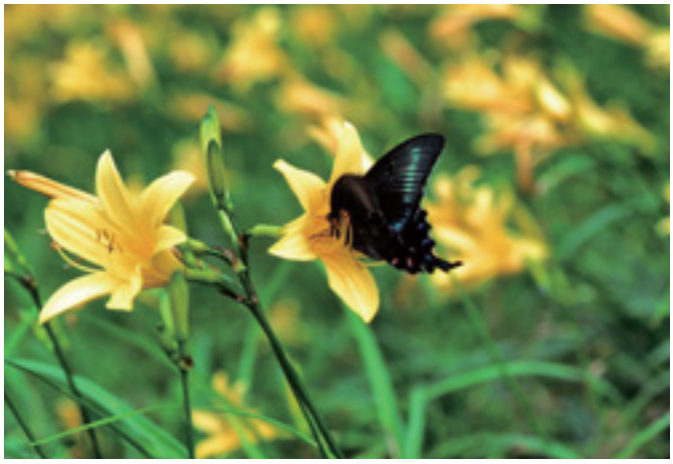
尾瀬のミニ観察⑤

―ニッコウキスゲ―

（花期：７月上旬～８月上旬）

尾瀬を黄色く染めるニッコウキスゲ。この花には蜜や花粉を求めてセセリチョウ、マルハナバチ、ハナアブなど様々な昆虫が来る。しかし、それら昆虫は花に比して小さすぎ、雌しべの先にはほとんど触れない。蜜を吸うとき雌しべの先にも触れて、花粉を媒介するのはアゲハチョウの仲間だけ。蜜を吸いながら羽をはたはたと動かして雄しべに触れ、羽についた花粉を雌しべに運ぶのだ。ただ、尾瀬にはチョウが少ない、あなたは運よくその場に立ち会えるだろうか。

（田中　肇）



（写真は赤城山にて撮影）

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

年会費			
	○個人会員	1口	2,000円
	○ユース会員（３月31日現在満22歳以下）	1口	1,500円
	○家族会員（個人会員と同居の家族）	1口	1,500円
	○賛助会員（団体・法人）	1口	10,000円

☆尾瀬内山小屋の宿泊割引について

長年に渡り、尾瀬山小屋組合様、尾瀬戸倉旅館組合様、尾瀬桧枝岐旅館組合様、民宿組合様のご協力により、ご好評頂いてきました尾瀬および周辺宿泊割引きですが、別途、友の会の更新の方でもご案内している通り、今年度より尾瀬山小屋組合様加盟の山小屋につきまして宿泊割引きが無くなりました。なお、尾瀬戸倉、檜枝岐村の周辺宿泊につきましては、引き続き割引を行っていただけます。

☆友の会の会員期間の変更について

昨年度までは、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる会員期間で皆様にご加入いただいておりましたが、今年度より加入あるいは更新から１年間の会員期間とし、尾瀬のシーズンをフルに楽しんでいただけるようになりました。一年を通じて加入の受け付けを行っていますので、皆様のご加入を心よりお待ちしています。

☆メールクラブのご案内について

「友の会」会員を対象に、登録をいただいた方に尾瀬のいろいろな情報をメールにてお送りする「めーるクラブ」を行っています。是非、ご利用ください！（登録は財団ホームページから）

○その他､「友の会」の詳細及びお申し込み方法等は財団ホームページをご覧いただくか、財団事務局までお問い合わせください。

本誌は、尾瀬の木道をリサイクルした再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。